FUZAMBO'S COMPREHENSIVE ENGLISH-JAPANESE DICTIONARY

〔REVISED & ENLARGED〕

大英和辭典

修訂增補版

文學博士 市河三喜
文學士 畔柳都太郎
飯島廣三郎 共編

東京 合資會社 冨山房

昭和六年三月十四日 初版發行
昭和廿一年二月廿五日 百六十版發行
昭和廿六年六月十日 修訂增補版第一版發行
昭和廿八年八月廿五日 修訂增補版第拾版發行

大英和辭典修訂增補版奥附

定價 參千圓

著作者 市河三喜
著作者 畔柳都太郎
著作者 飯島廣三郎

東京都千代田區神田神保町一の三
發行者 合資會社 富山房
富山房社長
坂本守正

東京都文京區春木町三の二四
印刷所 三友印刷株式會社
代表者 堀越征策
製本所 大津印刷製本株式會社
代表者 大津福造

発行所 東京都千代田區神田神保町1の3 合資會社 富山房

Made in Japan

はしがき

當今英語の研究が益〻盛んになるにつれて、英和辭書の出版も亦多く、大小立派な辭書が世間に行はれてゐる。斯學の爲め喜ばしいことである。しかし往時はなかなかさうではなかつた。古い英和辭書は、多くは英米人の用を充たした英米國の國語辭書を簡短に直譯したものであつて、我國の英語學習者にとつては靴を隔てゝ痒きを搔くの感があり、ともすると單語の意義さへ十分には了解し得られまいと思はれるふしもないではなかつた。これは誠に遺憾である。若し一歩進んだ我國人本位の英語辭書——もつと詳細に解釋した英和辭書があつたならば、我英語學習者により多く便益になるであらう。かういふ考から本書の編纂は發意されたのであつた。それは明治卅三四年の頃であつたと思ふ。

編者は斯學の大家にはかりて漸次に辭書編纂の準備を整へ、明治卅七年に至つて初めて本書の起稿に着手した。しかし此の事業は一朝一夕に完成され得るものではない。畔柳都太郎先生は明治四十一年に、市河三喜先生は大正五年に、何れも編者の乞を容れ、幸にこれに參加せられることになつた。爾來相共に拮据精勵すること多年。幾萬枚の定稿、未定稿總て出版書肆の倉庫に保藏されてあつたのが、此間災禍に遭ふこと前後二回。大正二年の神田の大火には危機一髮の間に燒失を免れ、同十二年の震災には店員諸氏の決死の勇

によりて辛うじて危地より救出された。奇蹟といはうか、天祐といはうか。かくて大正十四年に至つて原稿完成し、更に之を剞劂に附してより時日を費すこと滿五年有餘、今玆昭和六年に至つて漸く出版されることになつたのである。

編纂に當つては、英米に於ける辭書は勿論、歐洲大陸に行はれてゐる英語辭書、及び我國の英和辭書等大凡三十餘種の書籍を參考した。語彙の選擇には最も苦心したが、原稿整理の際には、大體英國出版の Concise Oxford Dictionary と米國出版の Funk & Wagnalls Practical Standard Dictionary とに擧げてある語彙の程度を標準とし、其以上の專門の成語は多くは省略した。辭書は何れも最新刊のものを參考したのであるから、最近に行はれる語も意味も網羅し得たと信ずる。但し所謂新語として現今日本で行はれてゐる語でも、編者の手にした英米の辭書に見出されなかつたものは之を取入れることを避けた。

固有名詞を語彙中に加へたのは英和辭書としては恐らく初めての試であらう。地名も人名も必ずしも其場所、人物が重要であるからといふ意味で選取したのではない。中には單に發音を示す爲めに擧げたのもある。總數八千四百十一。說明は成るべく簡略に記述した。

各語の定義は、意義を正確に了解し易からしめんことを期し、譯語、譯文は一般に行はれてゐる最も普通な國語を用ひ、一時の流行語は成るべく之を用ひず、又特に必要なき限りは野卑な國語を使用することを憚つた。本書を參考せられる方は、原語の意義を了解せ

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

られた上で、文雅な言葉なり、通俗な言葉なり、將亦流行の言葉なりに隨意にこれを改譯せられたい。

全篇を通じて語彙十四萬一千二百餘、成句、熟語約三萬三千、文例は四萬六千五百餘の多數に上つてゐる。たゞ編者の菲才の致すところ遺漏誤謬も少くないことを恐れる。幸にして江湖篤學諸士の示教を得ば啻に編者の幸甚のみに止まらずと信ずる。

顧るに本書起稿の年より今日まで實に廿八の春秋を算へる。曲亭馬琴の八犬傳は廿八年の日子を以て大成せられ、Oxford の New English Dictionary は七十餘年の星霜を經て完結された。二千頁に足らざる本書も微力の編者には廿八年の歳月を要したのであつた。勿論難事業であることは覺悟してゐたので、完成の期限は當初より豫定してゐなかつたものゝ、かくまで長年月を費したことに想到すると、衷心甚だ慙愧に堪へぬ。幸にして出版者たる冨山房主坂本嘉治馬氏は、編者の事業の容易でないことを豫想し、營利の觀念を離れ、只管本書の爲めに無制限に多額の經費を提供せられたのである。普通の營利會社としては、かういふことは到底出來得なかつたであらう。"*If a thing is worth doing at all, it is worth doing well.*" 編者は本書の內容が成るべく完全ならんことを期し、語彙に揭げた一語に廿日以上の時間を犧牲にしたこともある。單純の語でも、凝意熟考幾度か推敲し、其上更に畔柳先生、市河先生が校訂改修せられたのを採つて之を原稿に編纂したのであるから、一語一句にも餘所目には見えぬ苦心と時間とが費されてゐる。殊に剞

劒中の五年間は、市河先生は日として校正を手にせられざるはなく、又編者は一身を全然此事に傾注し、殆んど晝夜の別さへ覺えなかつた。人に古今なく、國に東西なし。八犬傳の跋文と N.E.D. の序文とが今さら編者の心骨に感徹する。

玆に哀悼の感を新たにするのは畔柳都太郎先生の逝去である。先生は初期より此事業に盡瘁せられ、殊に毎年夏季中は房州北條の一民家に蟄居し、炎威と鬪ひながら日夜執筆を續けられたのであつた。常に「自分は本書のためには一命を賭してゐるが、執筆の際は參考書を縱横左右に見るので、終には頸筋が痛くなり、右にも左にも曲らなくなつて來る」と言つて居られた。此言は不幸にして讖となり、先生は大正十二年本書の完成を見ずに永眠せられたのである。返す返すも遺憾の至りに堪へない。

本書の完成には、第一高等學校教授小椋晴次先生、成城高等學校教授百瀨甫先生の貴重なる援助を受けた。又富山房編輯部市川滿氏、太田益治氏、山本高次氏、勝原雅大氏外數氏、及び出版部員諸氏の非常なる盡力、更には日清印刷會社社員諸君の多年間の勤勉に負ふところが甚だ多い。玆に篤く感謝の意を表する。

昭和六年二月

飯島廣三郎識す

凡　　例

1. 見出し語

見出し語は普通の語は首字を小文字にて擧げ，首字を大文字とする語は大文字にて擧げた．語の意味にて大文字或は小文字になる時には，其意味の所に例へば［A-］又は［a-］として注意して置いた．

音節はウェブスター式によつて區分し，各音節の間に細いハイフンを挿入し，複成語には稍長く太いハイフンを挿入した．

綴字は大體英吉利にて普通に用ひられてゐるものに據り，異體のものも便宜の方法によりて之を掲載した．

圓括弧（　）を附した文字は其文字があるのと無いのと二樣の語形あることを示し，角括弧［　］を附した文字は直前にある文字と同樣に用ひられる語形あることを示したのである．

〔例〕 **ap-pal(l)′=ap-pal′; ap-pall′**
be-hav′io(u)r = be-hav′ior; be-hav′iour
wag″(g)on-et(te)′=wag″on-et′; wag″on-ette′; wag″gon-et′; wag″gon-ette′
as′se-gai[y] = as′se-gai; as′se-gay
civ′i-lis[z]e = civ′i-lise; civ′i-lize

意義同一の語は同一行中に列擧し，綴りの同じい部分は省略したのがある．

〔例〕 **as-cend′ence; -en-cy = as-cend′ence; as-cend′en-cy**
ge-net′ic; -i-cal=ge-net′ic; ge-net′i-cal

人名，地名の項中にある波形符號 ～ は見出し語に代へたものである．例へば **Longfellow** の項中に **Henry Wadsworth** ～ とあるは **Henry Wadsworth Longfellow** となるのである．

同一語にて品詞を異にする時は —— を以て區別し，發音を異にする時は其所に發音を示したれど，稀には別の見出しに出したのもある．

2. 發音

發音は萬國音標文字を用ひ，見出し語の下に又は必要の場所に（　）を附けて掲げた．表記法はジョウンズ (Jones) 氏のそれに多少の變更を施し，アクセントは見出し語にては主音符を′，從音符を″として音節の終りに附し，音標文字にては主音符を′，從音符を‘として音字の上に附した．但しyとφとには其肩に附してある．

音標文字中イタリック體(斜體)にて記したるは其音のない發音法もあることを示したのである．尙念の爲め注意して置くが音標文字の *a* は a の斜體にあてたのである．

〔例〕 **lu′mi-nous** (ljú:minəs) = { (ljú:minəs) (lú:minəs)
wain′scot (wéinskət) = { (wéinskət) (wénskət)
civ″i-li-s[z]a′tion (sìvilaizéiʃən) = { (sìvilaizéiʃən) (sìvilizéiʃən)

音標文字で發音を示した中で t と ʃ との音の間の切れ目にはハイフンを挿入した．

〔例〕 **court′ship** (kɔ́ːt-ʃip)　**nut′shell″** (nʌ́t-ʃèl)

見出し語に發音が省略してあるのは其直前の見出し語と同一發音のものである．

一語にて二つ以上の發音あるものにはコンマにて切りて其發音を別々に示した．但し同一發音の部分は便宜之を省略し，異れる發音部分のみ示したのが多い，發音異れば音節の切り方も異るのがあるのであるが煩雜を慮りて見出し語の音節の切り方は改めずにある．

意味同一なる爲め二つ以上の語を列擧したる場合には，發音同一なれば其發音は各語を兼ねて示し，發音異れるは見出しに擧げたセミコロンの切りに準じて其發音を各別に示した．

同一語にて意味が異るため發音を異にする時は其意味の所に發音を記入して置いた．

3. 外國語

全然英語化せざる外國語には［　］の中に略字を記して其國を示した(後掲略語表參照)．成句には英語の對譯が載せてある．發音は英語にての發音と原發音とを併記したのもあり，原發音のみを擧げたのもある．但し佛蘭西語はアクセントが普通に語尾にあることに定まつてゐる故これには見出し語にも發音にもアクセントが附けてない．外國の地名，人名も大體上記に準ずる．

4. 變化形

名詞，形容詞，動詞，副詞等の變化形は不規則のものに限り見出し語の下に［ ］を附しキャップ體にて示した（これにも便宜に綴字を省略したのが多い）．但し複成語，派生語には不規則の變化形も略したのがある．

動詞の不規則變化形にして過去と過去分詞と同一のものは兩者を兼ねて示し（二つ以上あるものは二つ以上をコンマにて切る），過去と過去分詞と異るものはセミコロンにて區切りて過去分詞を擧げた．即ちセミコロンの前にあるは過去形，後にあるは過去分詞形である（これにも綴字の省略されたのがある）．現在分詞は語形が一定してゐる故全然省略した．

5. 見出し語の直下に *n. pl.* とあるは其見出し語が複數形であることを示し，譯語中に *pl.* とあるは見出し語が複數形になつた時の意味を示したのである．

6. 譯語を附すべき場所に等符號 ＝ とキャップ體にて語を入れたのがある．これは其語と同意味故其語の項を見よといふのである．

7. 黑體文字にて譯語の次に等符號 ＝ を附して擧げたのがある．是れは意味が同一であり，そして別に他の場所に擧げないといふ意味で黑字體にして掲げたのである．譯文中にある黑體文字の語も其所より外には出してない．

8. 譯語の中にて（ ）内にイタリック體にて挿入してあるのは其語に伴ふ前置詞，副詞又は不定法である．

9. 譯語の中に（ ）を用ひ普通字體にて英語を挿入したのがある．これは意味が同一であることを示したのである．

10. 成語・熟語

成語，熟語は品詞によつて區別を設けず，總て語の最終部分に一括して掲出した．

熟語の排列は句全體の abc 順によらず，一語一語より見た abc 順によつた．外に檢索の便を慮り多少不規則に排置したのも稀にはある；例へば **to call a party** を **to call after** よりも前に出し，**to call for trumps** を **to call forth** よりも前に出してあるが如し．

熟語中に挿入した括弧（ ）には次のやうな場合がある．

(1) 括弧中の語が省略されることもあるもの．

［例］ (a) **upon the (whole) matter. = upon the whole matter; upon the matter.**
(b) **(so) many men, (so) many minds. = so many men, so many minds; many men, many minds.**

即ち a の例にていへば whole は省略されることもあり，b の例でいへば so は省略されることもあるのである．

(2) *or* を附して擧げた語は直前の語と同一意味にて換用せられることあるもの；但し此意味が括弧を附せずして紛れなく分かるものには括弧を附けないものがある．

［例］ (c) **complete (*or* general, normal) manure.**
(d) **golden (*or* happy) mean.**

即ち c の例にては complete manure とあるも，general manure とあるも，normal manure とあるも同一意味，又 d の例にては golden mean とあるも，happy mean とあるも同一意味であることを示したのである．

(3) 二つ以上の熟語を併用したものがある．

［例］ (e) **Hospital Saturday (Sunday). = Hospital Saturday; Hospital Sunday.**

e の例の場合には譯文にも括弧を附して夫れ相當の譯語がつけてある．

(4) one なる語を挿入したのは其所に或る相當語が用ひられることを示したもの．

［例］ (f) **to take (one) down a peg.**

即ち (one) の場所には him とか her とかの語が用ひられる筈のものである．

文例中に用ひた括弧も上記に準ずる．

成語又は熟語でセミコロンで句切りして二つなり三つなりを列擧したのがある，是れは意味が同一であるので便宜さうしたのである．

11. 文例中シェイクスピア (Shakespeare) 及び聖書 (Bible) より採取したものには文末に其出所を明記してある（後掲略語表參照）．譯文の文末に（坪内）とあるは坪内逍遙氏，（聖書）とあるは國譯聖書の譯文である．

12. 引用符 ‘ ’ は普通の文法によるもの丶外，英文の方では諺語に附したのがある．邦文の方では諺語，特殊の意味の言葉，及び編者の造語に出たものに附けたのである．

音標文字及び發音略解

標準英語の發音と日本語の發音には相違するところがあるが，今玆に音標文字を擧げ假名文字で發音を示す．

母　音

æ　口を開いて發するアの音がエに近いもの．
[例] back (bæk), cat (kæt), map (mæp)

a　標準英語の二重音 ai の a の音．

ɑ　次に擧げたアー音の短いもの；標準英語には稀である．
[例] a-ha′ (ɑhɑ́:)

ɑ:　ɑ の長音；アー．
[例] mast (mɑ:st), laugh (lɑ:f), fa′ther (fɑ́:ðə)

e　エの短い音．
[例] bed (bed), less (les), tell (tel)

ə　アクセントの無い音節にだけ用ひられる弱い曖昧な音；アに近く聞こえる．
[例] a-bout′ (əbáut), fun′nel (fʌ́nəl), cus′tom (kʌ́stəm)

ə:　ə の長音；アーに近く聞こえる．
[例] bird (bə:d), hurt (hə:t), work (wə:k)

ɔ　口を大きく開けて奥で發するオの音．
[例] box (bɔks), doll (dɔl), wash (wɔʃ)

ɔ:　ɔ の長音；オー．
[例] all (ɔ:l), horse (hɔ:s), thought (θɔ:t)

o　オの短音．
[例] o-bey′ (obéi), o-mit′ (omít), no-to′ri-ous (notɔ́:riəs)

u　口を丸く突出して發するウの音．
[例] put (put), book (buk), wolf (wulf)

u:　u の長音；ウー．
[例] rule (ru:l), moon (mu:n), fruit (fru:t)

ʌ　口を半開して發するアの音．
[例] but (bʌt), trust (trʌst), son (sʌn)

i　イの短音．
[例] ink (iŋk), pig (pig), sit (sit)

i:　i の長音；イー．
[例] bee (bi:), key (ki:), field (fi:ld)

ɛ　エに近い音でもつと口を開けて發音する；標準英語の二重音の ɛə の ɛ の音．

ɛ:　ɛ の長音；標準英語には稀である．

ɛə　ɛ と ə との二重音；エア．
[例] bear (bɛə), chair (tʃɛə), rare (rɛə)

iə　i と ə との二重音；イア．
[例] hear (hiə), mere (miə), cheer (tʃiə)

ei　e と i との二重音；エイ．
[例] gate (geit), name (neim), ray (rei)

ou　o と u との二重音；オウ．
[例] note (nout), old (ould), shad′ow (ʃǽdou)

ai　a と i との二重音；アイ．
[例] life (laif), kind (kaind), spy (spai)

au　a と u との二重音；アウ．
[例] out (aut), mount (maunt), cow (kau)

ɔi　ɔ と i との二重音；オイ．
[例] oil (ɔil), boy (bɔi), toy (tɔi)

ɔə　ɔ と ə との二重音；オア．
[例] oar (ɔə), ore (ɔə), door (dɔə)

uə　u と ə との二重音；ウア．
[例] poor (puə), tour (tuə), moor (muə)

子　音

b　バ，ビ，ブ，ベ，ボの子音．
[例] book (buk), big (big), bob (bɔb).

d　ダ，デ，ドの子音；t の濁音．
[例] dog (dɔg), dram (dræm), hide (haid)

f　ファ，フィ，フェ，フォの子音；下唇を上齒につける．
[例] fin (fin), flag (flæg), knife (naif)

g　ガ，ギ，グ，ゲ，ゴの子音；k の濁音．
[例] god (gɔd), glad (glæd), dog (dɔg)

h　ハ，ヒ，ヘ，ホの子音．
[例] hat (hæt), hen (hen), hold (hould)

j　ヤ，ユ，ヨの子音．
[例] yoke (jouk), young (jʌŋ), mute (mju:t)

k　カ，キ，ク，ケ，コの子音．
[例] keep (ki:p), kind (kaind), back (bæk)

l　舌尖を上齒につけ舌の兩側より發するラ，リ，ル，レ，ロの子音．
[例] lake (leik), fly (flai), mill (mil)

m　マ，ミ，ム，メ，モの子音．
[例] man (mæn), meet (mi:t), game (geim)

m　m の無聲音.

n　ナ, ニ, ヌ, ネ, ノの子音.
[例] neck (nek), nice (nais), nun (nʌn)

p　パ, ピ, プ, ペ, ポの子音.
[例] pen (pen), pin (pin), pope (poup)

r　ラ, リ, ル, レ, ロの子音.
[例] run (rʌn), rest (rest), trick (trik)
標準英語にては子音 r の終止音は消えて前の母音が ɑ:, ə, ə: で終止するが, 此次に更に母音が來る時は r の子音が發音される.
[例] air″-of′fi-cer (ὲərɔ́fisə), wher-ev′er (ὣweərévə), far a-way′ (fɑ:rəwéi)

s　サ, セ, ソの子音.
[例] soft (sɔ:ft), smell (smel), gas (gæs)

t　タ, テ, トの子音.
[例] take (teik), top (tɔp), coat (kout)

v　f の濁音.
[例] vat (væt), vex (veks), live (liv)

w　ワの子音.
[例] wet (wet), wall (wɔ:l), swim (swim)

z　ザ, ゼ, ゾの子音; s の濁音.
[例] zone (zoun), wise (waiz), rose (rouz)

ŋ　n の音が鼻に通る音; ン.
[例] sink (siŋk), long (lɔŋ), spring (spriŋ)

ʃ　シャ, シ, シュ, シェ, ショの子音; s よりも舌を上げ, 脣唇を突出す.
[例] ship (ʃip), fish (fiʃ), mo′tion (móuʃən)

ʒ　ジャ, ジ, ジュ, ジェ, ジョの子音; ʃ の濁音.
[例] az′ure (ǽʒə), meas′ure (mé3ə), fu′sion (fjú:ʒən)

θ　舌尖を上齒につけて發するサ, ス, セ, ソの子音.
[例] thick (θik), thought (θɔ:t), mouth (mauθ)

ð　舌尖を上齒につけて發するザ, ズ, ゼ, ゾの子音; θ の濁音.
[例] this (ðis), then (ðen), with (wið)

tʃ　t と ʃ との結合音, チャ, チ, チュ, チェ, チョの子音.
[例] chain (tʃein), church (tʃə:tʃ), watch (wɔtʃ)

dʒ　d と ʒ との結合音, ヂャ, ヂ, ヂュ, ヂェ, ヂョの子音; tʃ の濁音.
[例] judge (dʒʌdʒ), gi′ant (dʒáiənt), sol′dier (sóuldʒə)

ts　t と s との結合音; ツの子音.
[例] huts (hʌts), pots (pɔts), dates (deits)

dz　d と z との結合音; ヅの子音; ts の濁音.
[例] gods (gɔdz), beds (bedz), sides (saidz)

hw　h と w との結合音.
[例] wharf (hwɔ:f), whip (hwip), wheel (hwi:l)

標準英語にない發音

y　佛蘭西語の 'lune' の u, 獨逸語の 'über' の ü の音; 唇を u の音のやうにして i を發音する.

ø　佛蘭西語の 'peu' の eu, 獨逸語の 'hören' の ö の音; 唇を o の音のやうにして e を發音する.

œ　佛蘭西語の 'peur' の eu, 獨逸語の Wörter の ö の音; 唇を ɔ の音のやうにして ɛ を發音する.

ã ɛ̃ ɔ̃ œ̃ ～ は鼻音化の符號で, これ等の母音は口と鼻と兩方から出る鼻母音である; 佛蘭西語にある音で, 往々半英語流に母音の次に ŋ が用ひられる.

ç　獨逸語の 'ich' の ch の音; ヒの子音.

x　蘇蘭英語の 'loch' の ch, 獨逸語の 'ach' の ch の音.

ɲ　佛蘭西語の 'cognac', 'montagne' の gn の音でニュの音に近し.

ɥ　佛蘭西語の 'nuit' の u の音.

ɯ　唇を丸くしない u の音; 日本語のウの音.

F　フの子音; 兩唇で發音する.

尙精しくは市河三喜著「英語發音辭典」を參考せられたい.

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

本書中の略語表

【醫】……醫學
【音】……音樂
【岩】……岩石學
【化】……化學
【鑛】……鑛物
【建】……建築
【工】……工學
【詩】……詩學
【修】……修辭
【神】……神學
【聖】……聖書
【染】……染物
【築】……築城
【天】……天文學
【農】……農業
【博】……博物
【簿】……簿記
【理】……理學
【論】……論理
【印】……印刷
【解】……解剖
【幾】……幾何
【畫】……繪畫
【軍】……軍事
【言】……言語學
【古詩】…古代詩學
【史】……歷史
【商】……商業
【心】……心理學
【政】……政治
【胎】……胎生學
【鑄】……鑄造
【電】……電氣
【砲】……砲術
【美】……美術
【紋】……紋章
【林】……林學
【織】……織物
【航】……航海
【機】……機械
【光】……光學
【經】……經濟
【古】……古生物學
【算】……算術
【宗】……宗教
【植】……植物
【數】……數學
【測】……測量
【代】……代數
【哲】……哲學
【動】……動物
【法】……法律
【文】……文法
【藥】……藥學
【倫】……倫理

【愛】……アイルランド
【英】……英國
【稀】……稀語
【古】……古語
【蘇】……スコットランド
【南阿】…南部亞弗利加
【鄙】……鄙語
【米】……米國
十……驢語
【印】……印度
【濠】……濠洲
【戲】……戲語
【詩】……詩語
【俗】……俗語
【方】……方言
【佛】……佛國
【梵】……梵語

[Ar.].....Arabic
[Chin.].....Chinese
[F.].....French
[Gr.].....Greek
[It.].....Italian
[Port.].....Portuguese
[Sp.].....Spanish
[A. S.].....Anglo-Saxon
[D.].....Dutch
[G.].....German
[Heb.].....Hebrew
[L.].....Latin
[Rus.].....Russian
[Turk.]...Turkish

品詞略語

a. .....adjective
comb. .....combining forn
imper. .....impersonal
mas. .....masculine
pers. .....person
pp. .....past participle
prep. .....preposition
rel. .....relative
suf. .....suffix
vi. .....intransitive verb
ad. .....adverb
conj. .....conjunction
ind. .....indicative
n. .....noun
pl. .....plural
ppr. .....present participle
pres. .....present
sing. .....singular
v. .....verb
v. sub. .....substitute verb
art. .....article
fem. .....feminine
int. .....interjection
pa. .....participial adjective
poss. .....possessive
pref. .....prefix
pron. .....pronoun
subj. .....subjunctive
v. aux. .....auxiliary verb
vt. .....transitive verb

聖書より擧げたる文例の出所の略語

Acts.....The Acts
Amos .....Amos
Cant. .....Canticles (Song of Solomon)
1 *Chron.* .....I. Chronicles
2 *Chron.* .....II. Chronicles
Col. .....Colossians
1 *Cor.* .....I. Corinthians
2 *Cor.* .....II. Corinthians
Dan. .....Daniel
Deut. .....Deuteronomy
Eccl. .....Ecclesiastes
Eph. .....Ephesians
Est. or *Esther* .....Esther
Ex. .....Exodus
Ez. or *Ezra* .....Ezra
Ezek. .....Ezekiel
Gal. .....Galatians
Gen. .....Genesis
Hab. .....Habakkuk
Hag. .....Haggai
Heb. .....Hebrew
Hos. .....Hosea
Isa. .....Isaiah
Jas. or *James* .....James
Jer. .....Jeremiah
Job .....Job
Joel .....Joel
John .....John
1 *John* .....I. John
2 *John* .....II. John
3 *John* .....III. John
Jonah .....Jonah
Josh. .....Joshua
Jude .....Jude
Judges .....Judges
1 *Kings*.....I. Kings
2 *Kings*.....II. Kings
Lam. .....Lamentation
Lev. .....Leviticus
Luke .....Luke
Mal. .....Malachi
Mark .....Mark
Matt. .....Matthew
Mic. .....Micah
Nah. .....Nahum
Neh. .....Nehemiah
Num. .....Numbers
Obad. .....Obadiah
1 *Pet.* .....I. Peter
2 *Pet.* .....II. Peter
Phil. .....Philippians
Philem. .....Philemon
Prov. .....Proverbs
Ps. .....Psalms
Rev. .....Revelation
Rom. .....Romans
Ruth .....Ruth
1 *Sam.* .....I. Samuel
2 *Sam.* .....II. Samuel
1 *Thes.* .....I. Thessalonians
2 *Thes.* .....II. Thessalonians
1 *Tim.* .....I. Timothy
2 *Tim.* .....II. Timothy
Tit. .....Titus
Zech. .....Zechariah
Zeph. .....Zephaniah

シェイクスピアより擧げたる文例の出所の略語

All's Well .....All's Well that Ends Well
A. Y. L. .....As You Like It
A. & C. .....Antony and Cleopatra
C. of E. .....The Comedy of Errors
Cor. .....Coriolanus
Cymb. .....Cymbeline
Ham. .....Hamlet, Prince of Denmark
1 *Hen. IV.* .....King Henry IV.—Part I.
2 *Hen. IV.* .....King Henry IV.—Part II.
Hen. V. .....King Henry V.
1 *Hen. VI.* .....King Henry VI.—Part I.
2 *Hen. VI.* .....King Henry VI.—Part II.
3 *Hen. VI.* .....King Henry VI.—Part III.
Hen. VIII. .....King Henry VIII.
J. C. .....Julius Cæsar
John .....King John
Lear .....King Lear
L. L. L. .....Love's Labour's Lost
Macb. .....Macbeth
M. M. .....Measure for Measure
M. N. D. .....A Midsummer Night's Dream
Much Ado .....Much Ado about Nothing
M. V. .....The Merchant of Venice
M. W. W. .....The Merry Wives of Windsor
Oth. .....Othello, the Moor of Venice
Pericles .....Pericles
Rich. II. .....King Richard II.
Rich. III. .....King Richard III.
R. & J. .....Romeo and Juliet
SHAK. .....Shakespeare
T. A. .....Timon of Athens
Temp. .....The Tempest
Tit. A. .....Titus Andronicus
T. N. .....Twelfth Night
T. S. .....Taming of the Shrew
Two Gent. .....The Two Gentlemen of Verona
T. & C. .....Troilus and Cressida
W. T. .....The Winter's Tale

修訂增補版序

この〝大英和辭典〟の編纂には、思わざる長年月を費したのであつたが、出來上つてみると、又すぐ修訂し增補せねばならないということを心窃かに感じていたのであつた。そして、年一年と經つうちに、その必要なことを切實に感じるようになつた。といつて、なかなか思うような有能な協力者も見出せないまま、荏冉日を空しうしてしまつたのであるが、幸いにも、その後、齋藤靜君が協力盡瘁してくれることになつたので、始めて愁眉を開いた次第である。

齋藤君は、人も知る篤學な英語學者であり、該博な學識と豐富な經驗とを兼備された辭書編纂にかけての老練家であり、恐らく斯界隨一の權威者として定評のある人である。

斯くして齋藤君が、學務多端な日常を顧みず、この面倒な仕事に自分の學究生活の寸暇をもさいて、一意專心、鋭意努力してくれた結果、昭和十九年秋、あの激しい戰火の眞最中に、やつと稿を完うすることが出來た。それでも着手してから既に五年の歲月を費していたのであつた。勿論、疎開々々の戰塵中のことであつたので、原稿は冨山房の地下の金庫に收まつて、製版、印刷等は頓挫したままであつた。

そのうち終戰となり、國家萬般の情勢が一大轉變し、この原稿は更に新しい修訂增補の斧鉞を加えねばならぬことになつた。月に日

に變轉してゆく情勢と共に、筆を加えること三たび、昭和二十五年の春にやつと脱稿することとなつた。恰も版元冨山房の現社長坂本守正君は、三月一日が創業六十五周年の好機なるを卜して、往年の活動を再開せんとするに當り、その記念として、永世不朽の名著であり、國家の寶典ともいうべき大槻博士の〝大言海〟全四卷の復刊を完了し、これに續いて、この〝大英和辭典〟の修訂增補版の刊行を公にして、世にその批判を乞うこととなつた。齋藤君と共に、まことに欣快に思うところである。

昨年の八月、いよいよ增補原稿の製版にかゝるということになつたが、齋藤君は、もう一度といつて又推敲にかゝつてくれ、これまで收錄整理してある新語を更に選擇取捨したり、訂正したり、增補したり、とうとう四カ月、殆んど不眠不休と形容してよいくらい、實に粉骨碎心の努力を傾倒してくれられたおかげで、この新時代の要望に卽應出來るよう、こゝに斧鉞の功を完了することが出來たのである。顧みて感慨無量であり、感謝に堪えない次第である。

以下增補の部分について本篇の方と多少異なる點を概說して讀者の便に供する。

I　編纂の方針

集約的方針をとり、最大限に紙幅の利用につとめたので、かなり多くの語句を集錄することが出來た。

II　語彙について

終戰後發生した新語は出來る限り集めたばかりでなく、從來あつたものでも使用頻度の大なるものは出來るだけ多く集めた。殊に時勢の動向を察して、多くの米語をとり入れたが、これらは新聞・雜誌・小說類に頻出するもので、その使用範圍を明らかにしておいた。

Ⅲ　固有名詞について

讀書の際こまることは、一般的に文化人、殊に偉大な業績をたてられた科學者たちの名がよく出て來ることであるが、これらは特殊な辭典類を見なければわからない。そこで今回は、かなり多くの有名な人々の名を集錄し、その業績と履歷とを簡潔に記載することにした。ただしこれらの人々の生れた年はわかつているが、なくなられた年のわからないものが少くない。これについても最近の資料を參照して手のつくせるだけはつくしたのであるが、何にせよ全世界にわたつていることなので、現在の事情では完璧を期することがほとんど不可能にちかい。しかし考えようによつては、物故した年月などは、さほど重大な問題とも思われない、殘された偉大な業績がその氏名とともに永遠に生きるのであるから。

固有名詞のうち地名の人口については、增補の部は新しい資料によつたのであるが、本文の方については改訂し得ない部分もあつた。これも現在の事情の然らしめるところと諒承せられたい。

Ⅳ　發音について

かなり多くの米語を採錄したことであるから、純粹に米語と見なすべきものに對しては、米語の標準發音を示しておくのが適當のことと思うが、然しアメリカにも、イギリス式の標準發音とまつたく同一ではないにしても、かなりよく似通つた發音が廣く用いられていることであり、その使用範圍が漸次擴張されて行く傾向にあるので、或る特殊の場合を除き、米語の發音はイギリス式の發音を代用することにした。實際上これで不便はないと思う。ただひとつことわつておきたいことは、極めて少數の場合ではあるが、米語の發音を示すために、本文の方では用いなかつた〔ɑ〕を用いたことである。これは米語の標準發音を示す最近の最も權威ある發音辭典にも用いているもので、大體日本語の「ア」に似たものであり、英語の〔ɔ〕に相當するものである。例えば、**College, Collar, etc.** (kálidʒ), (kálə) の如きである。

Ⅴ　分綴とアクセント表示について

本篇の方では見出し語に對して、その分綴と、第一第二アクセントを明らかに示してあるが、分綴の方は英文校正のごとき特別な場合に必要なだけのものであり、英文校正をするほどの人には、シラブルの切り方はよくわかつているわけであるから一切省くことにした。また見出し語に第一第二アクセントのしるしはつけないが、發音表示の必要あるものに對しては、發音記號の部分にそれを明示したのであるから困ることはないはずである。なお發音表示の方式は本篇と同一である。人名の發音表示のうちでフランス人のものだけは一樣にアクセントをつけずにおいた。これはフランス語の特徵として、すべて語尾の音節にあることにきまつているからである。

1951年1月　　市河三喜

A COMPREHENSIVE ENGLISH-JAPANESE DICTIONARY

A

Aa *Aa* Aa *Aa*
ローマン　イタリック　ジャーマン　スクリプト

A ; a (ei) イギリス字母第一の文字；下記諸符號に用ひる. ㊀ 第一. ㊁【音】イ音. ㊂【航】等(一等, 二等などゝふ等にして船舶の格附に用ひる). ㊃【論】假定の人又は物(論式等に用ひる). ㊄【數】第一既知量.
—**A 1.** (ei wan) 第一等船の, 第一等の, 第一位の, 上等の (此語は本來 *Lloyd* 會社船名錄にて第一等船の記號として用ひたるもの).
—**not to know A from B.** A と B との區別さへ知らぬ, イロハのイの字も知らぬ, 何も知らぬ, 全く無學である.

a (ei, ə) *art.* & *a.* 或る一つの, 一つの, 或る.
☞ 此語は *An* と同一の語なり；往時は *an* のみ用ひられしが, 現時は *an* は母音を以て始まる單數名詞又は名詞前の形容詞又副詞に冠用せられ, *a* は子音を以て始まる單數名詞又は名詞前の形容詞又副詞に冠用せられる. [例] *A* man. 一人の人. *A* young man. 一人の年若き人. *An* old man. 一人の老人. *A* horse. 一頭の馬. *An* ox. 一頭の牛. *A* ewe. 一頭の牝羊 (*ewe* の發音は ju: なり, 母音字にて綴り始めらるゝと子音にて發音する；故に *a* を用ひ, *an* を用ひず). *A* house. 一軒の家. *A* pair of shoes. 一足の靴. *A* shower of rain. 一シキリの雨. *A* set of books. 一部の書物. *A* row of trees. 一列の並樹. *A* bundle of hay. 一束の枯草. *A* piece of meat. 一片の肉. *A* fine day. 好い天氣. *A* gloriously fine day. 氣持の好い程よい天氣. *A* mile or two. 一二哩. In *a* minute. 一瞬時に. In *an* hour. 一時間の中に (*hour* の發音は auə なり, 子音字にて綴り始めらるれど, 母音にて發音する；故に *an* を用ひ, *a* を用ひず). In *a* word. 一語にて. At *a* blow. 一擊にて. To give *a* glance at. 一瞥する.
☞ A 又は an の特別用法. ㊀ 集合名詞 (Collective noun) の前に用ひる. [例] *A* multitude. 多數. *A* crowd. 一群. *An* army. 一軍勢. *A* dozen. 一ダース(十二箇)
㊁ *Few, great many, good many* 等の形容詞を有する複數名詞に冠用される. 又往時は數を示す形容詞に '大凡', '約' 等の意味にて冠用せられたこともある. [例] *A few* things. 僅の事物. *A great many* acquaintances. 多數の知人. *An eight* days after these sayings. (*Luke*) これらの言を言ひ給ひし後八日ばかり過ぎて(聖書).
㊂ '各', '毎', 'につき' 等の意に用ひられる. [例] Ten cents *a* yard. 一ヤードにつき金十セント. Twice *an* hour. 一時間に二度. Three times *a* month. 一箇月に三回. To give two shillings *a* man. 一人につき二志ゝ與へる.
㊃ *On, at, of* と伴ひては '同一' (Same) の意に用ひる. [例] All *of a* size. 總て同じ大さの. Fowls *of a* feather. 同じ羽毛の(同一種類の)鳥. They are *of an* age. 彼等は同じ年輩だ.
㊄ '云々のやうな人又は物' といふ意味にて固有名詞に冠用される. [例] We need *a Washington*. ワシントンのやうな人が入用だ. *A Daniel*, still I say, *a* second *Daniel!* (Shak. *M. V.*) いよいよ以てダニエルさんだ! 今ダニエルさんだ! (評者).
㊅ また固有名詞に冠して闘(ゴ)の聲に用ひる. [例] *A Warwick!* ウォリク! (闘の聲). *A Gordon!* ゴルドン! (闘の聲).
㊆ *So, too, as, how* 等を伴ふ形容詞或は *Many, such, what* 等の形容詞の後に用ひる. [例] *So* great *a* statesman. 左程の大政治家. *Such a* fool. コンな愚人. *What a* victory! オー何たる勝利を! *Many a* thing. 幾多の物. *Many a* time. 數回(幾度も幾度も). *How* different *a* fate! 如何に異れる運命なることよ! *Too* high *a* price for *so* small *an* advantage. そんな僅かな利益に對しては値段(ネ)が餘り高過ぎる.
㊇ *Quite, rather* なる副詞を伴ふ時は副詞と次に來る形容詞との間に用ひる. [例] *Quite a* good hat. 全く善い帽子. *Rather a* queer fellow. 少し變な奴(ヤツ).
㊈ 一つ (One) の意味を力强く言ふに用ひる. [例] It costs *a* penny. 只一ペンスだ (僅々一ペンスしかかゝらぬ)
㊉ '一つの而かも面白からぬ (好ましくない)' といふ意味にて用ひる. [例] Yes, I had *a* reply. 左樣 返事は來た (面白くはない返事だがの意).

a (ə) *prep.* ㊀ に. [例] To go *a*-fishing. 釣りに行く. To go fishing *a* Sunday. 日曜日に釣りに行く. To set *a* going. ヤリかゝらせる. To burst out *a* laughing. フキ出して笑ふ. He set.....three thousand and six hundred overseers to set the people *a* work. (*Chron.*) 三千六百人をもて民を操作(ツクリ)かしむる監督者とせり(聖書).
㊁ して, しかゝりて, されて, さればかゝりて. [例] To be *a* coming. 來かゝつてゐる. To be *a* building. 建ちかゝつてゐる. To be *a* thirst. 渴してゐる. To be *a* sleep. 眠つてゐる. To be *a* fright. 驚いてゐる. Jacob when he was *a* dying. (*Heb.*) ヤコブは死なんとする時(聖書).

a- *pref.* ㊀ *On, in, at* の義. [例] *A*foot, *a*head, *a*bed, *a*board, *a*live, *a*sleep, &c.
㊁ *To, into, towards* の義. [例] *A*shore, *a*side, *a*back, &c.
㊂ 副詞としての *To* の義. [例] *A*chieve, *a*scrive, *a*spire, &c.
㊃ *Of, off, from* の義. [例] *A*thirst, *a*down, *a*new, *a*base, &c.
㊄ 單に意義を强むるもの. [例] *A*rise, *a*wake, &c.
㊅ *Out* の義. [例] *A*mend, &c.
㊆ *Not, without* の義. [例] *A*chromatic, *a*morphous, *a*sexual, 「&c.

Aa'chen (á:xen) *n.* ㊀ プロシア Rhine 地方の州；1,604 方哩；人口 615,000. ㊁ 同州の首都；シャーレマン帝國の舊都；鑛泉地；世界大戰中獨逸軍の飛行根據地；人口 156,000. (此地はもと佛國の領土なりし故に佛國には今尙其舊名 Aix-la-Chapelle を以て之を呼ぶ).

Aal'borg (ɔ:lbɔ:g) *n.* デンマーク國 Jutland の州, 1,133 方哩；又其港都. 人口 38,000.

Aa'len (á:lən) *n.* 獨逸 Württemberg の都府；人口 12,000.

Aa'le-sund (ɔ́:lesun) *n.* ノルウェー國 Romsdal 州の都府；1904 年大火に罹る；人口 17,000.

Aalii.

a'a-li'i (á:alí:i) *n.* 【植】ハウチハノキ (無患樹科植物；ハワイに多産す).

aam (a:m, ɔ:m) *n.* 獨逸・オランダ・スウィス等に行はゝ升量名目 (地方によりて多少の差異あれども大凡我が八斗内外に相當す).

Aar (a:) *n.* スウィスの河；高 200 呎の瀑布あり；長 175 哩.

aard'vark" (á:dva:k) *n.* 【動】南部亞弗利加產貧齒類の一種, 食蟻獸(ゴ), '土豚'. (次頁に揭げたる圖は蟻のタフを驚ひたる光景)

aard'wolf" (a:dwulf) *n.* 【動】南部亞弗利加產食肉類の一種, '土狼'. (次頁に揭げたる圖は樫に繫がれたるもの)

Aar'gou (á:gau) *n.* スウィス國の州；542 方哩；人口 239,000.

Aar'hus (ɔ́:hus) *n.* デンマーク國 Jutland の州, 542 方哩；又其首府, 港都, 人口 65,000.

Aar'on (ɛ́ərən) *n.* ㊀ ユダヤの最初の高僧；モーゼの兄；モーゼと共にエジプト王 Pharaoh の面前にて杖を擲(ナゲ)ちて蛇に化す (出埃及記第七章).
㊁ 沙翁劇 *Titus Andronicus* 中の一人物.

Aar-on'ic (ɛərɔ́nik) *a.* ㊀ ユダヤの高僧アロンの, アロン後裔の, アロン

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com